政治と社会の対立の行方

令和 7 年 7 月 23 日
黒田インターナショナル　コンサルティング　LLC
黒田　毅

対立は自己の利益の追求の結果である。それらが混乱と争いを求めるならば、それに関与するべきでない。

これら争いを離れ未来を模索することは、それら混乱と距離をとり新たな未来を模索することができるのである。

異常性は必ず異常な世界を行うものである。それらに対して人類の理想を希求することはその共有性とともに新たな世界を提案できるのである。

異常性と正常性が唯一の判断である。これらは世界の真実とともに、自己が未来を模索する正しい理解なのである。

これら新たな対立構造に対して正論において未来を提示することは、正しい世界と未来を希求することであり、その合意が世界における唯一の選択なのである。

社会がその狂気を抱くことは、都市の現実である。しかし選択は唯一正論における世界の提案のみにおいて存在するのである。

これらが理性の追求であり、世界における正しい合意の形成なのである。

これら現実のもと異常性と正常性が相反する合意を形成するのである。２つの異なる社会の構築はその対立の構造と融和という異なる現実を生むのである。

この愛と憎しみの相反が未来の相違性の構築を得るものである。

これにおいて世界は明確に自己の正しい選択を理解できるのである。

これら現実のもと政治に対する判断を求めることは明らかに正しい選択なのである。

なぜならば政治が未来を行うのである。